

「市民バス」から「シャトルバス」への乗り継ぎについて

市内各地域で運行している市民バス(ミヤコーバス車両で運行)のほとんどが、古川駅を終点としています。大崎市民病院行きシャトルバスには、古川駅前バスプール①番のりばから乗り継ぐことになりますが、市民バスの路線によっては、古川駅到着前の停留所から、シャトルバスへ乗り継ぐことができます。

シャトルバスは、ミヤコーバスの事業者路線で、パタ崎さんの車両が目印です。(定期メンテナンス時は、ミヤコーバス一般車両で運行します)

- 問 ㈱ミヤコーバス古川営業所 ☎ 22-1781
- 問 まちづくり推進課地域自治・NPO担当 ☎ 23-5069

シャトルバス上り線の(駅南経由)大崎市民病院からの発車時刻が、一部変更となりましたのでお知らせします。

停留所	時刻の変更
大崎市民病院	7:03 → 7:01
栄町西	7:06 → 7:04
栄町東	7:07 → 7:05
南新町	7:08 → 7:06
中里	7:10 → 7:08
駅南	7:11 → 7:09
古川年金事務所入口	7:11 → 7:09
古川駅前	7:15 → 7:13

障害・福祉割引

種別	適用方法	割引率	介護人・付添人の割引
身体障害者	身体障害者手帳の提示	普通運賃：大人・小児5割引 定期料金：大人のみ3割引	▶手帳一種は介護人1人まで5割引(定期料金も介護人1人まで3割引) ▶手帳二種は割引対象者のみ5割引 ▶車椅子利用の割引対象者に対して介護人2名を割引(車椅子は無料)
知的障害者	療育手帳の提示	普通運賃：大人・小児5割引 定期料金：大人のみ3割引	
福祉児童	児童福祉法に規定する諸施設の責任者が発行する「福祉児童運賃割引証明書」の提示	普通運賃：大人・小児5割引	割引対象者に対して1人まで5割引
精神障害者	精神障害者手帳の提示	普通運賃：大人・小児5割引	なし

※車いすは1台利用可(事前にミヤコーバス古川営業所へお問い合わせください)



古川駅以外で乗り継ぎ可能なシャトルバス停留所

市民バス路線	シャトルバス停留所	シャトルバスに乗り継げる時刻
高倉線・宮沢真山線・清滝線・古川線・鳴子線・大貫線	⑥ 七日町	▶七日町経由：下り線 7:45・9:55・11:35・14:05 ※色麻線にも乗り継ぎ可能です。 12:10・13:05・15:25・18:35
松山鹿島台線	③ 駅南	▶駅南経由：下り線 7:13・8:23・10:53・12:33・15:43 ※美里町住民バスの大崎合同庁舎前停留所からの乗り継ぎも可能です。8:44・10:07・12:52
三本木大衡線	⑨ 南町団地入口	▶七日町経由：下り線 7:48・9:58・11:38・14:08 ※色麻線にも乗り継ぎ可能です。 12:13・13:08・15:28・18:38

シャトルバス運賃

運賃区分	大人：中学生以上 小児：小学生以下(1歳以上6歳未満の幼児と小学生)
運賃額	大人：100円～150円 小児：大人運賃の半額(10円未満の端数は切り上げ)
無賃区分	▶6歳未満の幼児2人まで、6歳以上の人に同伴され乗車する場合は、着席の有無を問わず無料(3人目から小児1人分の運賃) ▶1歳未満の乳児は無料 ▶6歳未満の幼児が単独で乗車する場合は小児運賃

新しい教育委員長と教育長です

5月に行われた議会臨時会で、教育委員会委員の任命について提案・同意され、5月30日に行われた教育委員会臨時会で、新しい教育委員長、教育長が指名推選されました。

任期は、平成26年5月30日から平成30年5月29日までの4年間で。

教育委員長

しげや ひであき
澁谷 秀昭



教育長

あおぬま たくお
青沼 拓夫



おおさき宝大使 横綱 白鵬関から 大崎市民病院新本院へ 優勝額が寄贈されました



6月1日、大崎市民病院新本院のほなみモールを会場に、「横綱白鵬関優勝額寄贈式」が、優勝額寄贈実行委員会(大沼悦子実行委員長)の主催で行われました。お忙しい中、横綱白鵬関、宮城野親方も駆けつけ、関係者による除幕により、横綱の雄姿をたたえた優勝額がお披露目されました。

高さ3.17m、幅2.28mの優勝額は、平成20年7月場所で全勝優勝を果たした際に作成されたもので、現在は行われなくなった専門職人の手で彩色され、直前まで両国国技館に飾られていた大変貴重な優勝額です。

白鵬関からは、「全勝優勝した際の縁起のいいもの。相撲は邪気を払うと言われていたので、病氣と闘っている市民皆さんの励みにしてほしい」とのあいさつがありました。

7月1日以降、新本院へ行った際は、ほなみモールに立ち寄って、寄贈された優勝額をご覧ください。

市長コラム 天・地・人 新病院に懸ける思い



7月1日、待望の新市民病院が、堂々のグランドオープンです。

新病院は、老朽化の解消と最新の医療機能を取り入れるため、移転・建設を選択し、着工から2年1カ月の建設期間を経て、4月5日の竣工式、6月の移転作業を終え、いよいよ念願の開院となりました。

医療の規模や機能、質の面において、名実ともに県北最大にして最新・最良の病院となります。

震災に伴う工事の遅れや資材の高騰、建設用地の土壌処理などのアクシデントもありましたので、ひととき感慨深いものがあります。

今後、県北の圏域民の生命、健康を預かる基幹病院の使命として、救急医療、高度医療を担うとともに、地域の医療機関と連携しながら、初期救急から三次救急までの医療を完結できる体制を構築してまいります。

また、医師派遣の主体を担っていた、たいしている東北大学と「先制医療等の連携に関する協定」を締結し、一層の連携、交流を図ることになりました。

おおさき宝大使横綱白鵬関から、「病氣と闘う市民を元気づけたい」と全勝優勝額をご寄贈いただいたのをはじめ、市内外のたくさんの方々から、絵画や医療機器、浄財もご寄附賜りました。

大駐車場を完備し、シャトルバスも運行され、開院に合わせた交通アクセスの工事も完了しました。

多くの皆様のご支援、ご協力を得て、大事業を成し遂げることができました。感謝を込めて、市民の生命と健康を守り、安全・安心な医療を提供してまいります。

大崎市長 伊藤康志